

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

E. 学習・研究環境の改善

④ICT 技術を利用した遠隔教育の推進

●龍谷大学法学研究科法律学専攻

「NPO・地方行政研究コース」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

コースの必修科目である「NPO・地方行政特別演習」は、所属院生を2グループに分け、法学部・経済学部所属の教員が計2名で指導するゼミ形式の演習であるが、通常は京都駅前サテライトで実施している。しかし、平日の夜間の時間帯のため、社会人院生が出席しやすいよう本部キャンパスとサテライトの両方での参加を可能にするために遠隔講義システムを試験的に導入した。

(苦労したこと、困難であったこと具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

教員と院生のやりとりを重視したインターフェイスか、会議を中継するようなインターフェイスか、どちらも円滑にできるような機種とソフトの選定(予算も含め)が困難であった。結局、通常の「テレビ会議システム」ではなく、プレゼンテーションソフトも共有できるようPCを利用した「遠隔講義システム」を導入したが、音響面で時差が生じたり、事前にインターネット上にアップしておかなければ資料が共有できない等の不便が生じた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

今後は、資料共有に必要な以上の負荷をかけず、遠隔でのやりとりがスムーズな「テレビ会議システム」の再導入について、学内的に検討されている。資料の準備については、事前に参加者にメールで送付するなどの対応となる。